

「自由記述式のアンケート調査」結果速報レポート①

——收容者が社会復帰後に望む支援はどのようなものか——

NPO 法人マザーハウスでは、2014年7月以降に文通を開始した、刑事収容施設の收容者の方に、アンケートをお送りし回答してもらいました。

このレポートはそのうち、社会復帰後に望む支援のあり方についての、收容者の方の回答結果をまとめたものです。

1章では、どのような手順で調査をし、誰が回答をしてくださったか（調査方法、回答者の属性）を記しています。

2章では、全体として見るとどのような回答がなされているか（回答の計量的特徴）を示しています。

3章では、典型的な回答の例を示します。

4章で、結果から分かることをまとめ、現在の支援に何が欠けていて、どのようにおぎなうべきかについて、議論します。

末尾の資料編では、本文中で取り上げられなかった回答の例をいくつか示します。

1. 調査方法、回答者の属性

NPO 法人マザーハウス（理事長：五十嵐弘志）では、全国の收容者とボランティアの間の、文通活動を行っています。マザーハウスでは、收容者の方のこれまでのライフコースや現在の希望について知ることを目的として、「自由記述式のアンケート調査」を実施しました。

調査票は、2014年7月以降2019年12月までの期間に新たに文通を申し込んだ、当時刑事収容施設に收容されていた方に、会報「マザーハウスたより」とともに同封する形で、郵送しました。回答は任意で、收容者の方自ら調査票に記入、返送していただきました¹。大まかな配布総数は1500通以上、回収数は約800通でしたが、正確な配布総数、回収数は最終報告書に記載する予定です。

質問のほとんどは、大きな空欄に文章などで回答してもらう（自由記述）形式で、その内容は大まかに、これまでの人生（犯罪・非行、家族、生活・勉学・仕事のそれぞれの項目）と、現在や今後について（犯罪・非行、家族、生活・勉学・仕事、被害者について、マザーハウスへの要望、社会復帰後の支援のそれぞれの項目）についてのものでした。

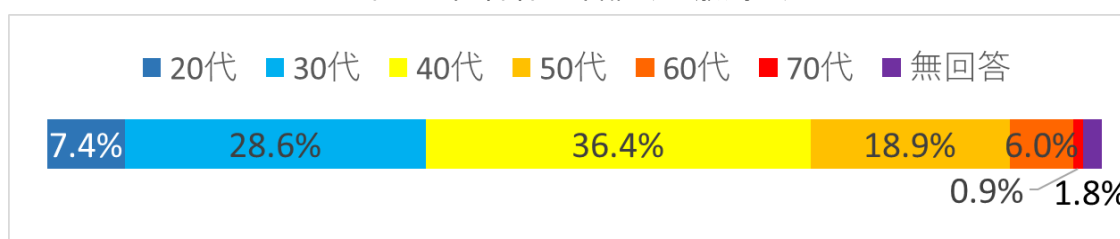
¹ なお収容施設に返送用切手を送ることは許可されていないため、收容者の方には返送にかかる郵送料をご負担いただきました。それにもかかわらずご回答をいただき、誠にありがとうございました。

本レポートでは、「現在望むこと、気をつけていること、これから、楽しみにしていることなど、今後、どのように生きていきたいと思いますか。」の小項目「社会復帰後の支援について」の自由記述の内容を分析します。

なお本レポートは、回答全体のうち 217 票をもとにした、速報版です²。信頼性には課題がありますが、今回は調査結果の見通しをいち早くお届けするという主旨で、速報レポートとしてまとめさせていただきました。調査対象者には無期刑と有期刑の方の両方が含まれていますが、本レポートで分析する 217 ケースは、すべて有期刑の方のものです。

回答者の内訳をみると、性別は、男性が 210 名 (96.8%)、女性が 7 名 (3.2%) でした。年齢については、22 歳から 72 歳までの方が回答していて、特に 30 代、40 代の方が多いです (図 1)。

図 1 回答者の年齢 (10 歳刻み)



2. 回答の概要

それぞれの回答はいずれも貴重なものですが、紙幅の関係上そのすべてを紹介することができません。そこでまずは、回答の全体的な傾向を、回答に含まれている言葉を数えるという仕方³で、大まかに示します (テキストマイニング³)。

手順としてはまず、全体で 5 回以上使われた語⁴のリストのうち、一般的に用いられるため固有の意味を解釈しづらい語 (「特に」「少し」「思う」など) を除いたリストを作りました。しかしただの単語のリストは意味が解釈しづらいです。そこで次に、同じ人が、一緒に使いがちだった語が近くに置かれるように平面上に単語を置き、大まかなグループにまとめる作業 (Kruskal の非計量多次元尺度構成法⁵およびクラスター分析⁶) を行い、意味のまとまりをとらえやすくしました。

²入力作業の都合上、ここでは入力作業が完了した 217 名のみ³の回答を分析しています。入力した質問紙について、特に選定の基準はありませんでした。

³これは大規模なテキストデータについて近年使われるようになった分析の仕方⁴で、コンピューターを用いその量的な傾向を客観的に示すものです。分析にはフリー・ソフトウェア KH Coder を用い、単語の抽出には外部プログラム「茶筌」を用いました。

⁴助詞などは削除されています。また動詞・形容詞・形容動詞は語幹に統一してあります。

⁵次元は 2 としました。語と語の関連は Jaccard 係数を用い表しました。

⁶平面上の距離にしたがって、Ward 法により分類しました。

れらが共に用いられやすい（住まいのために身元引受人が必要となっている、などの用法）ことがわかります。

黄色のグループは、「住まいと就業」のグループと呼べます。「住居」「確保」「お金」「就職」「探す」などの単語が含まれています。紫色の公的制度や、「生活保護」、赤色の話と情報入手と共にも用いられやすい傾向があります。

赤色のグループは、「話と情報入手」のグループです。「話」「聞く」「気持ち」などの会話と、「アドバイス」「相談」など情報入手に関する単語が含まれています。「困る」、「仕事」「生活保護」「分かる（分からないの形で用いられることが多い）」と距離が近く、これらの情報の不足とかかわっている可能性があります。また「心」「協力」などとの距離も近いです。

青色のグループは、「生き方」のグループと呼べます。「人生」「生きる」など抽象的な単語、「出る」「施設」といった、過去についての単語、「救う」「出来る」など今後についての単語が含まれます。出所後の新たな生き方について、他者への貢献と結びつけた記述が見られました。赤色の他者との話や、オレンジ色の具体的活動やつながりとの距離も近いです。

オレンジ色のグループは、「活動・つながり」のグループです。「ボランティア」「学ぶ」など就職以外の活動や、「仲間」「紹介」など他者とのつながりにかんする単語が含まれています。他者とのつながりにかんする単語は、青色の「生き方」と共に用いられやすいです⁷。

緑のグループは、「一般」のグループです。「支援」、「出所」、「社会」、「生活」など、質問文に対して一般的に多く用いられがちな単語や、調査対象の特徴から多く用いられると想定できる「マザーハウス」という単語が含まれます。他のどのグループと共にも用いられやすいため、中央に位置しています。

最後に図2の縦軸、横軸の意味について説明します。

図の横方向の軸（次元1）は、手段的—非手段的の軸といえます。

図の左側には、「就職」、「アドバイス」、「申請」など、お金や情報といった他の目的に使える財を得る手段にかかわる単語が多くあります。

図の右側には、「学ぶ」、「仲間」「ボランティア」など、他の目的のために使えるというよりも、それ自体が目的となる活動や、人とのつながりについての単語が多くあります。

縦方向の軸（次元2）は、制度—非制度の軸といえます。

図の上側には、「国」、「住まい」、「身元引受」など、公的な制度（特にそれとかかわりが深い住居）についての単語が多くあります。

図の下側には、「心」、「人間」、「協力」など、直接制度に組み込まれていない、情緒や社会関係についての単語が多くあります。

図からは、収容者の社会復帰後の支援についての回答のテーマには幅の広がりが見てとれます。住まいや仕事は代表的なものとして挙げられますが、ほかに、情報、他者とのつながりや

⁷ 紫の「住む」との距離の近さは解釈しづらいですが、「東京」「ボランティア」「マザーハウス」などが共に用いられやすいことが影響していると考えられます。

協力、就職以外の活動、も挙げられている（それぞれ少なくとも5人が言及）ことが分かります。

3. 典型的な記述の例

さらに、単語だけでなくその用いられ方を探っていきます。ここでは回答のすべてを紹介することはできませんが、典型的な用いられ方を紹介します。なおここで紹介しきれなかった回答の一部は、補論に紹介しています。

・紫（出所にかかわる公的な制度）

今は身元引受人（保護会）を希望して色々あたりましたが、現在で20ヵ所ぐらいの保護会が不許可となり、断られてしまいました。多分今回の罪名が悪く、その中で、前刑のA刑務所で引受人をBの保護会にきまり、仮釈放で出所したのですが、その日保護会に行かずCに帰ってしまっただけで仮釈放が取り消しになったのが、ひびいているのかと思います。今回満期出所しますが、その時に、保護カードをもらって、観察所に行けば、うけいれてくれるのですか。自分にはかえる所も住む所もないので不安です。もし出所後、支援してくれる所があれば申し訳ありませんが、教えてください。よろしくお願いします。（50代男性）

満期日に荷物だけ持たされて出所させられてホームレスになるのでは・・・という不安があります。（30代男性）

・黄（住まいと就業）

現在領置金もなく生活保護を受けることになると思いますが、できるだけ働きたいと思っています。居食住のことが一番の心配です。（60代男性）

できますれば引受人を受けていただき、一日も早く社会復帰できる環境を整えていただきたいと思っています。そして、就職活動から就職までスムーズに進むようにご助力していただきたい。そして部屋を借りて自活するまで刑期満了に拘わらず助けていただきたいです。これまで全て仮釈放にて出所し、更生保護施設へ帰住してきましたが、満期を迎えたら放り出されてきたのでそのようなことがない様お願い致します。（40代男性）

・赤（話と情報入手）

出所後、自立した生活ができるまで、生活保護で生活したい考えで居ます。その手続きなど。そして、心のケアの相談にのっていただきたいです。（50代男性）

利害に関係なく、アドバイスや相談事を聞いてくれる安心できる人や場所に出会いたいで

す。(40代男性)

就職するのにかかる必要スキルや、資格応援制度など職業能力の育成雇用促進など例えばpc実習や、カウンセリングなどでどういった業種業態がニーズがあるか向いているかなどの専門的アドバイス。又これからの時代のことを考えた時、フリービジネス（ネットで起業）などの育成などがあつたら自分の力で稼ぐ事ができる様になると考えています。平成初期には存在しなかったユーチューバーやインスタグラマー、ブロガーなど趣味の延長で生計を立てる人が多くなっている昨令そういった資格学歴関係ないビジネスもこの先ニーズがあるのではと思うのですがやはり生計を立てられること自分にマッチした仕事をする事が望ましいです。(40代男性)

まだ先もあり、あまり実感がないですが、元受刑者に対する世の中の目は冷やかだと思えます。そんな時気持ちを理解し話を聞いてもらえる場があればいいなと思えます。(20代男性)

・青（生き方）

誰にも迷惑を懸けない生き方の支援・健康で生活できる支援（出所後の生活保護や施設入所）・文通などの支援・誰かのために生きたい（60代男性）

私が帰れる場所、仕事、心の内を話せる支援者や仲間、私と同じような経験をされた方々とのコミュニティ（集合、自己啓発、活動）などを支援していただけたら大変助かります。真面目に仕事をし、正しく規則正しい生活をし、決して迷惑はお掛けしませんのでどうぞよろしくお願い致します。私も今度こそ真剣に立ち直らなくては人生どうしようないものになってしまう事をしっかり理解しています。本気で変わります。どうかよろしくお願い致します。(40代男性)

私の本当の夢は幼い子供達の為に何かをしたかった！結局人間が好きで、恋しく、愛していたのだと思う。自分のこれからの生き方、あり方など支援・相談してほしい。残された時間、どのように生きてゆけば・・・今の私に出来る可能性を支援してほしい。(50代女性)

・オレンジ（活動やつながり）

- ・身元引受人になっていただきたいです。前刑も保護会20ヶ所断られているので。
- ・便利屋業ラウレンシオで働かせてほしいです。
- ・言いにくいのですが、支えになって欲しいです。
- ・そして進んでボランティアやイベントに出て人と一般の人達や復帰を目指す仲間達と出逢いたい。

- ・絆や愛という物を知ってみたい。外の世界で生きていくことが当たり前と思えるように学ばせて欲しいです。
- ・出所後、住むところがないので、支援して欲しいです。(40代男性)

私は、神様と共に有る、そういう生業をしたく、それについてのノウハウを学びたいと思います。その事に対する支援があるならしてもらいたいです。自分が、この体調の悪さで本当に困って、困っている人達の気持ちが分かりました。今までだと、世界中で困っている人達の話の聞いても「大変やな」「かわいそうに」と思う位でしたが、今は自分がその立場になり、身にしみてよく分かり、私はこれから世界中の困っている人達の為に活動していきたい、世界中でそういう活動をしたいと思います。その為の勉強をしたいです。(40代男性)

・緑（一般）

- ・「生活保護受給」申請への御同行、御助力
- ・一週間程度の「寄り添い」（生活物品や家具 ETC.購入品または必要物資の搬送、生活相談等。）この御支援があれば、何とか生活再スタートが叶うと思います。

私が社会復帰しましたら、どれだけマザーハウスに支援できるか分かりませんが、マザーハウスの活動に参加したり、マザーハウスの活動を知らない人達に一人でも多く知ってもらえるように、呼びかけをしたいと思います。(30代男性)

4. 考察

これらの結果からは何が読み取れるでしょう。

第1に、収容者が社会復帰後にかんじて抱えている心配や不安がみてとれます。

まず社会復帰後の住まいや就職先について、これらが決まっておらず心配である、といった具体的な心配が多くみられました。こうした心配は、出所後に頼れる知り合いがいない、といった社会的なつながり(ネットワーク)の不足と関連して書かれていることが多くありました。またそれは身元引受人がいないことも結び付けて記述されていました。

これについては、つながりや支援が不十分な中でも、住居や就職ができるようにする、そして支援に本人をつなぐことが必要だと考えられます。しかし現在それは十分とはいえません。例えば身元引受について、マザーハウスには受刑者から引受の依頼が多く寄せられます。しかし支援者の側から申請を行っても受理されない場合がほとんどで、必要とされているつながりや支援が、本人に届いていない状況です。当人の福祉、再犯防止、いずれにとっても、これは問題だと考えられます。

一方で、出所後にどうなるのかが分からない、といった漠然とした不安の記述もみられました。ここからは、特に初犯で収容される場合など、出所後どのようなプロセスで社会復帰する

か、その際の制約は何か、また得られる支援としてどのようなものがあるか、について、本人に対する十分な説明が必要だと考えられます。このような説明は、当人の不安を解消するとともに、将来の社会復帰への具体的な意思やそのための行為につながるものと考えられます。

調査結果からは第2に、収容者が望む支援の多様性を見出すことができます。

図2からは、社会復帰後の支援について、上述の住まいや仕事以外にも、赤のグループに示されるような情報や他者とのつながり、そしてオレンジのグループに示されるような、就業以外の社会的活動について多く記述されていることがみてとれます。つまり居住や就職だけでなく、様々な申請の仕方や生活の仕方についての情報、安心して話せる相手、自らを活かすことのできる場についても、ニーズがあることが読み取れます。

情報については、様々な手続きの仕方、就職のためのスキル、社会で生活していくこと全般の情報について教えてほしいという記述が見られました。特に初めての収容、あるいは長期の収容などの場合、こうした情報が不足していることが多いと予想されます。

話す相手については、安心して話せる相手の不在について記述が見られました。社会的ネットワークは上述の情報の経路としてだけでなく、当人の健康、生きがいにとっても重要です。またそれは何かあった時に当人が適切な支援につながるができるようにします。しかしそれは、出所者と他の社会の成員が相互に承認しあうことにより初めて成り立つものです。出所者が以前と変わることも大事ですが、同時に社会の側も変わらなければ、出所者のつながりの欠如や再犯といった問題は解消できません。

刑務所出所後の生き方や具体的な活動のイメージについても、多く記されていました。そうした中には現行の支援の対象となりやすい就職以外にも、様々な学習、ボランティア、等が挙げられていました。就職だけでなく、こうした活動についても支援することは、当人にとっても社会にとっても望ましい結果を生じうると考えられます。例えば、学ぶことは、再犯の連鎖を断ち、新たな生き方をするきっかけとして大事なものと考えられます。収容者は書籍を定価で買うことが多いですが、これは所持金の少ない収容者にとっては難しい場合も多いです。例えば中古の書籍の購入をしやすくすること、あるいは図書館で除却された書籍の寄贈などが、学びを促進する手立てとして考えられます。

今回の質問で想定されていたのは、どのように支援されたいかについての回答でしたが、逆に自身が誰かを支援したい、という回答が多くみられたことも特筆すべき点でしょう。変わろうとしている受刑者もいる、また変わった後は、就業以外でも様々な形での社会貢献の可能性がありうるということを踏まえて、支援を考える必要があるでしょう。

最後に、本レポートの限界と意義について述べておきます。限界としては、第1に、本調査の対象は、マザーハウスとの文通を開始した方に限られているため、また回答の傾向は収容者全体を代表しているとは限りません。収容者全体（あるいは受刑者全体）を調査した場合は、本調査には表れなかった他のニーズが発見される可能性もありますし、回答の量的な傾向は変わると考えられます（例えば本調査では60代以上の割合は6.9%でしたが、これは収容者全体に占める60代以上の比率と比べて少ないと考えられます）。収容者（あるいは受刑者）全体

の傾向を知る上では、特定の収容者だけでなく、すべての収容者に調査する（全数調査）、あるいはすべての収容者のうちランダムに選ばれた一定数の方に調査する（無作為抽出による標本調査）が必要となります。第2に、これと関連し、本調査の対象は男性が9割以上を占めており、女性のケース数も少ない（7名）ため、女性の収容者の傾向については十分にとらえられていません。

このような限界はありますが、全数調査や無作為抽出による標本調査を行うことが困難な状況下において、本調査は、収容者のニーズや特徴を知るための重要な手がかりを提供してくれる貴重なものだといえます。特に、ニーズの多様性については、無作為抽出によらない調査であったとしても、その一端をとらえることができたといえます。またそれは自由記述形式の回答によってとらえやすくなったものです。改めまして、回答者の皆様に感謝申し上げます。

文献

樋口耕一, 2020, 『社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して— 第2版』ナカニシヤ出版.

資料編：その他の記述

まずは、第一に希望しますのは、お金もまったくないため、生活保護からスタートして行きたいので、申請に同行して欲しいという事です。第二に、恥ずかしい話ですが、自分は服が夏用の半袖シャツ数枚と、短パン1着しかありません。冬物はスウェットの上1枚のみです。下着も私物は1つも持っていません。できましたら少しでかまいませんので支援していただければ助かります。あと、出所日当日から薬が必要で特に、眠剤と、吸入器がないと、眠れなく、せきが止まらなくなるため、当日から病院へ行けるように手配していただきたいです。最後に、自分は逮捕前まで自分でやっていた、〇〇でのホームレスの人々へのボランティアを再度したいので、本格的にその様な活動に参加できるようにしてほしいです。以上です。どうか宜しく願いいたします。(50代男性)

私は、前々刑のC刑務所を6年6ヵ月務めて出所した時、職もお金もなく、とても困っていて、社会福祉事務所に生活保護の申請に行ったのですが、相談室に通され、生活保護には住所がないと受けられないと言われたのですが、それ以上取り合ってもらえず、刑務所に入っていたというだけで、こんなにも社会は冷たいのかと感じ、刑務所で罪を償えば社会は受け入れてくれるものだとはばかり思っていたのですが、甘かったです。初犯だった私は、何も知らずに社会に放り出され、仕事は派遣社員として登録しましたが、生活が成り立たず、再犯してしまいました。今回は、社会復帰後のことを考え、家を借りられるお金を貯めたいです。仕事なども、運転免許を活かした仕事に就きたいと考えていますので、まだ先のことですが、長期受刑者の社会復帰に対するアドバイスなどありましたら聞きたいです。(30代男性)

現在NPOの「△△」とも文通をしています。私の経験を生かし、若い人たちにいい話を聞かせる仕事をしないかとも声を掛けていただいているので、もし少しでも社会に役立つ自分があるならばと考えています。もちろん教会に出向いて話を聞くのも悪くないと思っていますので、良いアドバイスをお願いします。(70代男性)

社会復帰後の支援については、考えてはおらず、どちらかというマザーハウスを支援したいと思っています。(40代男性)

出所してからの生活の面では年金受給しておりますので大丈夫なのですが、一人生活ですから厳しき面も大きいでしょうからこの寂しさをどうするかが私の人生を大きく変えるものと自覚しておるところです(60代男性)

まだまだ先のことですが、所謂「浦島太郎」のような状態になっていると思われるので、その時が来たら（近づいたら）後支援、ご協力お願い致します。（20代男性）

①生活保護及び仕事を探すことが第1なのでお願いします。②暴力団から出た者は、何らかの理由をつけられ追っかけられる者が多く、更生する為働こうとしても、刑法に触れない限り、警察も介入してくれない場合が多く、困っている人が沢山います。それを、どういう形で排除していくかを協力し支援していただければとお願いしたいです。③社会に於いて、役所関係での手続きが全く分からず、また、援助等の申請が出来ることすら知らない人が多い為、更犯として入ってくるのだと思います。少ない報奨金で、2年程の刑期で使用しなくても3万円程しかないのに出所してから考える前に、施設に入所中に相談の上、社会復帰後すぐ取り組める（手続きなど）支援システムを構築して欲しい。（50代男性）

誰もいないので確率からいって、又戻って来る様な気が多く…。私は社会で支援をしてもらってこと、救ってもらったと思えたことはありません。又社会に待っている人がいないということとも繋がるのだけど、もし私に社会で待っている人がいて私に子供など居たらこの中での生活、社会に出てからのこと、全て違う自分がいることだと思えて仕方ありません。今回は社会に戻った時は彼女と呼べる女性ができて二人でドンキーへと一緒に買い物を行きたいという目標でいます。なんとか仲間、彼女とかいたらこの様な所へは来ないと思うし、違う生活をその娘の為にして行くだらうと思う。二人でドンキーへと買い物に行く！！前向きにはいるけれど、この中で人間的に暗くならないようにはしています。私の人生にとって転機となる人が現れること祈っている。（30代男性）

俺のわがままを言えば、ゆくゆくは実母と一緒に暮らし介護をしたいと思っています。なのでどうしても介護の資格がほしいのと店を持ちたいコトです。（30代男性）

今から勉強するので応援してほしい（50代男性）

妻子が待ってくれているので衣食住の心配はないのは救いですが、ネット時代となり就職しようとしても、過去の犯罪歴等が出てきて不採用が繰返されるなんて話を聞いています。なので就職先を見つけられなかったときの対処法や受刑者就業企業の情報等を支援して欲しいです。（40代男性）

おこがましいようですが、よく分かりませんので、支援可能な事柄を具体的に教えて下さい。（30代男性）

私達受刑者が最も不安に感じている事は、仕事の有無です。仕事はあっても年齢で難しい時もあります。マザーハウスの社会復帰後の支援に対して、私はまだ何も分かりません。そのところを、くわしく教えてもらえればありがたいです。(50代男性)

真面目に生活したいです。今迄見たいな中途半端な気持ちを捨て心を入れ替え更生していきたいです(50代男性)

現在のところ、私の体は年齢相応以上に健康です。所内に置いて運動時間のときは体を鍛えております。ですから、復帰後ボイラーの免許を修得まではその他の仕事をお世話していただけるのであればお願い致します。また、住む所もありませんので誠に厚かましいお願いで恐縮ですが、あればお願い致します。(60代男性)

「自由記述式のアンケート調査」結果速報レポート①
――収容者が社会復帰後に望む支援はどのようなものか――

2020年7月発行

特定非営利活動法人 マザーハウス
〒130-0024 東京都墨田区菊川1丁目16-17-102